

幼児期の教育は大切です。

- 幼児期は、心情、意欲、態度、基本的生活習慣など、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。
この時期に幼児は、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して、情緒的・知的な発達、あるいは社会性を養い、人間として、社会の一員として、より良く生きるための基礎を獲得していきます。
- 私たち大人は、幼児期における教育が、その後の人間としての生き方を大きく左右する重要なものであることを認識し、子どもの育ちについて常に関心を払うことが必要です。

幼稚園等の教育施設では、教員などの計画的な指導のもと、幼児は、「遊び」を通じて、「生きる力」の基礎を培っていきます。

- 幼稚園等の教育施設では、幼児の自発的な活動としての「遊び」を重要な学習として扱います。
そして、教育の専門家である教員・職員の援助のもと、組織的に、計画的な指導を行います。

幼児は夢中になって遊ぶ中で、好奇心をはぐくみ、知識や技術を身に付けていきます。また同年代の幼児と集団で生活することによる、社会性や道徳心、健康を培っていきます。

つまり、幼稚園等では、教員が幼児の主体的な「遊び」を中心に計画的に指導を進めながら、生涯にわたる人間形成の基礎を培う教育を行い、「生きる力」の基礎を育成していきます。

- 幼児教育における学びは、受験などのために知識の獲得を先取りするようないわゆる「早期教育」とは本質的に異なります。目先の結果のみを重視するのではなく、多様な活動を経験することによって好奇心や探求心を養い、生涯にわたる学びの基礎を作っています。

いわば、

あと「後伸びする力」

をはぐくんでいます。

(『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について』答申の概要)より)

生きる力の基礎の育成

基本的生活習慣
主体的な生活習慣
人とのかかわる力
知的な好奇心
道徳性の芽生え
協同的学び

遊びを中心に

後伸びする力を重視

管内保幼小連携連絡協議会

小学校教育以降の学習の基盤